

1 事業名

平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「親子 de わくわくキャンプ！ in テンパーク」

2 趣旨（事業の目的）

自然の中で遊びながら、幼児期に必要な36の基本的な動きを体験することで、体力・運動能力の基礎を培い、親子で絵本の読み聞かせを楽しむことで心を豊かにするとともに、親子の触れ合いや参加者同士のコミュニケーションを図る。

3 期日 平成29年6月24日（土）～25日（日）

4 参加者 32名（盛岡市・滝沢市の幼稚園・保育園の年長児とその保護者）

5 内容

（1）日程

		13:30	14:00	14:30	15:30	16:30	17:15	18:00	19:00	19:30	20:00	20:30	22:00
6月24日（土）	子ども	共通	受付	開会行事	動物発見オリエンテーリング	テンパーク de わくわくチャレンジ	休憩・就寝準備	夕食	入浴	親子 de 絵本選び	読み聞かせ	就寝	
	保護者				親子 de わくわく読み聞かせ！							保護者交流会【自由参加】	就寝
		6:30	7:00	7:30	8:30	9:00	13:00	13:30	14:00				
6月25日（日）	共通	起床洗面清掃	朝の集い	朝食	荷物整理	親子 de うどん作り ※南部曲り屋周辺		閉会行事	解散				

（2）指導者

絵本専門士

国立岩手山青少年交流の家

主任企画指導専門職

副主任企画指導専門職

企画指導専門職

事業推進係主任

指導補助

法人ボランティア

嶋田 ひろ子

鎌田 信浩

佐々木 真里子

工藤 祐幸

藤根 智子

3名

（3）企画のポイント

親子を対象とした事業であったが、保護者プログラムと幼児プログラムを設定することで、充実した体験ができるように配慮した。保護者プログラム「親子 de わくわく読み聞かせ」では、絵本専門士を招聘し、子どもの発達に応じた絵本の選び方についての講話や実際に絵本を読みながら紹介する場、保護者が絵本を選んで二人一組になってお互いに絵本を読み合う場などを取り入れ、本事業での体験を日常生活に生かすことができるようにした。幼児プログラム「動物発見オリエンテーリング」では、生活経験を生かして敷地内の動物看板探しを行い、グループでコミュニケーションをとりながら活動できるようにした。また、「テンパーク de わくわくチャレンジ」では、自然の中で遊びながら幼児期に身に付けさせたい36の基本的な動きを体験することができるように木登りチャレンジや的当てチャレンジ、ビックボールチャレンジなど、6種類のチャレンジの場を設け、グループで楽しく遊びながら必要な動きを身に付けることができるようにした。

さらに、親子の触れ合いや参加者同士のコミュニケーションを広げる場として、参加者同士がグループになってうどん作りに取り組む親子共通プログラム「親子 de うどん作り」を取り入れた。

(4) 広報のポイント

事業のチラシを当施設ホームページに掲載し、事業の周知を図った。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会や役場の保育園担当部署、幼稚園や保育園と報道機関へ開催要項とチラシを配付した。

(5) 運営のポイント

参加者が幼児ということもあり、親子でたっぴりと触れ合えることができるように、全体的にゆとりのある日程を設定した。また、親子でゆったりとした空間で触れ合うことができるように、読み聞かせをする場を宿泊室に設定し、1家族に1部屋を割り当てるようにした。さらに、絵本専門士からおすすめ絵本リストをいただき、市立図書館と連携しておすすめの絵本を宿泊棟の各談話室に31冊配置して、より多くの絵本に親しむことができるようにした。2日目の「親子 de うどん作り」の会場を南部曲り家に設定し、昔ながらの和の雰囲気の中で参加者同士がコミュニケーションをとりながらうどん作りに取り組むとともに、うどんを茹でるために薪を使った火起こし体験も取り入れた。

6 成果とその普及

「テンパーク de わくわくチャレンジ」では短い時間ながら自然の中で汗だくになりながら夢中になって木登りチャレンジや的当てチャレンジ、ビックボールチャレンジなどに取り組む幼児の姿が多く見られ、遊びを楽しみながら「36の基本的な動き」を体験することができた。また、「親子 de 絵本選び」や「読み聞かせ」では、談話室に何度も足を運び読みたい絵本を選んでいる親子や談話室の片隅で母親の膝に乗って読み聞かせを楽しむ幼児の姿が見られるなど、親子で触れ合いながら読み聞かせを楽しむ機会を提供することができ、子どもの読書活動の普及にもつながると考える。

参加者からは交流の家での規則正しい生活の体験を生かし、普段から規則正しく早寝・早起き・朝ご飯を心がけ、読み聞かせも楽しみたいという声も聞かれ、子どもたちの規則正しい生活の定着につながると考える。

7 今後の課題

本事業では開会行事後、保護者プログラムと幼児プログラムに分かれての日程を計画したが、もっと活発なコミュニケーションを図るためには、親子そろって交流する場を意図的に設定する必要があると感じた。今後、さらに参加者同士のコミュニケーションを深めることができるプログラムについて検討していく。また、参加者全員が当施設の事業への初めて参加であった。初めての参加者でも見通しをもって安心してプログラムに取り組むことができるような資料や運営の仕方を工夫していく必要がある。



絵本の選び方を学ぶ参加者



読み聞かせを楽しむ参加者



ビックボールチャレンジを楽しむ幼児



絵本選びを楽しむ親子



読み聞かせを楽しむ親子



うどん作りを楽しむ親子